

佐藤健さん、相葉雅紀さん…「イケメン病」の異名も

肺気胸 若年男性だけじゃない

若い男性に多い肺気胸は、あまり知られていないが、60代以降も主に喫煙を原因として発症する。患者は長身でスリムの男性が多いことから「イケメン病」とも言われ、気圧の変化で発症することもあるため、「気象病」の一種に位置づけられている。治療は胸部に長い針を刺すため、痛みが非常に強い。再発も多いため初期の段階から、内視鏡手術で患者の痛みを軽減する取り組みを行う医療機関もある。

喫煙、気圧変動引き金に高齢者も

芸能人で肺気胸を発症する人は多い。俳優の佐藤健さん、タレントの相葉雅紀さん(嵐)、元NEWSメンバーで俳優の内博貴さんのほか、シンガー・ソングライターの長瀬剛さんは今年5月、67歳で発症したことを公表している。

日本呼吸器外科学会専門医で、年間100人以上の気胸患者を診察する「札幌孝仁会記念病院」(札幌市西区)呼吸器外科の三品泰二郎医師によると、気胸は肺が何らかの原因で破れ、空気が胸腔に漏れて縮んだ状態を言う。肺表面の肺のう胞は、プラと呼ばれる、破裂する自然気胸と、肺にもともと疾患があり、それが進行することで発症する続発性気胸がある。

自然気胸は原因不明で、若い男性に多い。続発性気胸は喫煙に起因する慢性閉塞性肺疾患(COPD)などで発症し、高齢者に多い。数は少ないが女性も、子宮内膜が胸膜に付着し、月経時に内膜が脱落する際に胸膜に穴が開いて、気胸を発症することもある。

治療はエックス線写真を撮影し、肺のしほみ具合を判断して行う。軽度、中等度、高度があり、高度では肺が完全にしぼんだ状態になる。さらに胸腔内圧が異常に上昇した状態を緊張性気胸という。肺や心血管を圧迫するため死亡することもあり、



①透明の部分が肺のう胞(プラ) ②胸腔鏡を使って行われる肺気胸の手術(いずれも札幌孝仁会記念病院提供)



三品泰二郎医師

針刺す激痛治療 内視鏡手術も選択肢

緊急の治療が必要となる。

軽度の場合は安静にして、自然に穴がふさがって肺が膨らむまで経過を観察する。半分ほどの人は自然に穴がふさがるといふ。胸の痛み、息苦しさ、せき症状が強い場合は、長い針を胸部に刺し、空気を抜いたり(脱気)、胸に太さ6〜7mmのチューブを入れ(胸腔ドレーン留置)、たまった空気を体外に出す治療が行われる。

三品医師は「この治療は非常に痛みが強く、覚醒状態で行うため恐怖感から、泣いてしまう人もいる。何度も再発するので、治療のたびに胸に傷痕が増える。当院では痛みを少なくするため、穴が開いた風船(プラ)が肺表面にある患者を対象に、手術前の脱気や胸腔ドレーン留置を回避して、内視鏡手術を行う場合もある」と説明する。手術をしないと約8割が再発するが、手術を行うと1割ほどにとどまるといふ。

手術は胸腔鏡を使い、肺のう胞を切除して肺を修復する。一般には胸部に複数の穴を開けるが、同病院の場合はプラが難しい所にあるケースを除き、1カ所だけに穴を開ける単孔式で行う。術後は基本的に2日目に退院し、すぐに通勤・通学など通常の生活に戻れる。退院直後は肺活量が低下しているが、1カ月ほどで元に戻る。1カ月間は航空機への搭乗を控える必要がある。

気胸は航空機に搭乗したり、台風や発達した低気圧の接近・通過などを契機に発症することが知られているためだ。三品医師が札幌医大在籍時に行った研究によると、48時間で15%以上気圧が変動すると、統計的に明らかに気胸の発症率が増加。96時間で22%以上変動すると、発症率は通常時の2倍になった。

三品医師は「天気が悪くなり、息苦しさを感じた際は、気胸が発症している可能性がある。早期発見につながるの、我慢しないですぐに病院を受診してほしい」と話す。

(編集委員 荻野真生)

■北海道ケアラー支援推進月間親子参加型イベント「みんなまんなか未来を創るプロジェクトC」

30日午前10時～午後1時、「Route148」(札幌市西区宮の沢1の1)。クイズやミニ講演会を通じ、ケアラーへの理解を深める。こども食堂の仕事

を体験するコーナーや福祉機器の展示もある。北海道社会福祉協議会などの主催。問い合わせは同協議会、電話011・280・3043。

■乳がん患者会・あけぼの北海道の「あけぼのハウス」

12月7日午後1～3時、札幌市社会福祉総合セン

ター(中央区大通西19)4階視聴覚室。乳がんに関する不安や悩みを抱えた患者や家族が、乳がんを経験した会員と語り合う。無料。申し込み不要で、当日直接会場へ。問い合わせは同会の関川さん、電話011・717・8961(午後6時～8時)、またはメールakebonohokkaido@yahoo.co.jpへ。